平成２８年７月１日（金）

老球の細道２４７

# ＮＢＡと会津総体のアップセット

会津バスケットボール協会　　室　井　冨　仁

今シーズンＮＢＡのレギュラーシーズン勝率記録を塗り替えたゴールデンステイト・ウオーリアーズがプレイオフ決勝でレブロン・ジェームス引き入るクリーブランド・キャバリヤーズによもやのアップセット（番狂わせ）を許し、ＮＢＡ２連覇を逃してしまった。絶対的な強さを誇ったウオーリアーズだったが、アウトサイドシュートが決まらなくなったら、打たせられなくなったらということが杞憂でなくて現実になってしまった。

レベルには雲泥の差があるが、会津総体の場でもアップセットが繰り広げられた。ミニバスの場では坂下ミニバスの少数精鋭チームが喜多方のビックマン上級性多数チームを負かしてしまった。勝因はチームオフェンスによるアウトサイドシュートの正確さと大きな選手を多数で守るチームデイフェンスの徹底だったと思う。アウトサイドシュートの確率は驚異的なものだった。一人で勝手に打ったのがたまたま入ったのではなく、チームパターンの中で作ったシュートで入っているのが凄かった。このようなシュートがミニバスでも決まるようになるとマンツーマンで激しく守らないと防げなくなるので、規制しなくともマンツーマンデイフェンスが必要になってくるだろう。また、デイフェンスにおいても低学年のちびっこが多いので、インサイドを多くの人数でヘルプすることがチームデイフェンスとして機能しており、相手のビックマンは得点のみならずリバウンドもままならない状態であった。

高校男子の試合においては、田島高校が前の高体連予選では県大会出場を逃がしながらも今回見事準優勝という結果を出してくれた。県高体連後、３年生が残る残らないのチーム事情があるかもしれないが、それもチームの実力ととらえれば田島のアップセットは今大会のトピックである。ビックマンは１人もいないが、デイフェンスフットワークの速さ、ヘルプの寄りの速さ、そしてボールに対する執着心はすばらしかった。

今回数多くのゲームを見て改めて感じるのはデイフェンスの重要性である。バスケットボールの面白さはオフェンスにあるが、勝負にかかわるのはデイフェンスである。オフェンスで得点を取るのと同じようにデイフェンスで得点を抑えるのは同じ価値がある。シュートには波がある。オフェンスが機能しなくてもデイフェンスを頑張っているうちはまだ勝利は逃げて行かない。強いチーム、アップセットを起こすチームは例外なくデイフェンスがすばらしい。デイフェンスのがんばりがシュートにまで影響を与え、神がかり的にシュートの入る場面を作る。そこで一気に流れを引き寄せゲームを支配する。

アップセットのゲームは通常接戦となる。接戦をものにする、しないはコーチの腕にかかっている。４クオーターの残り１分、１、２、３点差を争う攻防の中でコーチはどのような指示を与えるかが勝負のカギを握る。少なくとも４つの場面について日頃の練習から準備しておかなければならない。僅差リードで逃げ切るときのオフェンスとデイフェンスの方法、僅差ビハインドで追い上げるときのオフェンスとデイフェンスの方法。

どんなレベルでもアップセットを起こしたチームの選手、コーチの表情は素晴らしい。努力を続けるとバスケットボールの神様がこのような瞬間をプレゼントしてくれる。だからバスケットボールを一生やめられない。強い者が勝つのではなく勝った者が強い。